

中越地震から一年たって

星野 直え

ぼくは中越地震にあったときぼくは小さい
たぐいの下じきになげそうだったけど、母が、
ぼくのことを、守ってくれました。

地震がおさまったときは家の中はぐちゃぐ
ちゃでした。外に出るといつもの山古志では
ありませんでした。

みんなが集まっていたる広場にいきました。そ
のとき寒くてこぶえるようでした。

次の日の夜ヘリコプターで長岡にひなす
るために山古志小学校まであるいて行きました。
ぼくは、もし学校に行くときたら、死ん
でいたかもしれないと思っっていました。山古
志小学校につきました。ヘリコプターに乗っ
ていたとき心の中で思いました。さよなら
山古志し。と思いました。

ひなん所では、よ震がよくおこりました。
そして、何日かたったらひなん所が変わりま

した。そこには、友だちがいました。友だちはけがなよとはしていませんでした。

ひびくんと生活は苦しかったけど、ボランティアの人たちが遊んでくれたので、そのときは夢のように楽しかったです。

そして、12月19日はぼくのたんじょう日でした。が、この日は仮設住宅に行く日でした。たぐさんの思い出があるひびくんと別れるのはとてもつらかったです。

そして、仮設住宅の生活が始まりました。

今約一年たちまもたか元気に生活しています。ボランティアの人たちから勇気をもどりました。地震には負けません。